

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和5年度研究開発実施報告書

科学技術イノベーション政策のための科学
研究開発プログラム

「新興感染症に対する非特異的対策のための行動変容と科学コミュニケーションに関する合理化および最適化研究」

西浦博
(京都大学 教授)

目次

1. 研究開発プロジェクト名.....	2
2. 研究開発実施の具体的内容.....	2
2 - 1. 研究開発目標.....	2
2 - 2. 実施内容・結果.....	2
2 - 3. 会議等の活動.....	7
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況.....	8
4. 研究開発実施体制.....	10
5. 研究開発実施者.....	13
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など.....	15
6 - 1. シンポジウム等.....	15
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など.....	15
6 - 3. 論文発表.....	16
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）.....	18
6 - 5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等.....	23
6 - 6. 知財出願.....	24

1. 研究開発プロジェクト名

新興感染症に対する非特異的対策のための行動変容と科学コミュニケーションに関する合理化および最適化研究

2. 研究開発実施の具体的内容

2 - 1. 研究開発目標

新型コロナウイルス感染症の流行対策は、数理モデルを含む各種科学技術が実装される機会であった。しかし、第1波の初動危機管理では政府の危機管理に比して過度な先回りが指摘され、長引くパンデミック対応の中で、流行対策の科学的助言や政治と科学の役割分担のあり方を見直さなければならない機会であることも強く認識された。特に、日本における新型コロナウイルス感染症の非特異的対策（基本的対処方針）においては、接触の自主的な削減や1つひとつの感染対策が要請に基づいて実行され、それは諸外国のロックダウンと比して極めて特異であった。明示的な個人レベルの罰則を講じなかった一方、世間の同調に対する圧力の下で対策が成立していたことが否めない。社会的にはパンデミックの喧騒が落ち着きつつも未だ流行自体が続く中において、複数回の予防接種が人口内に行き渡ったいま、本研究では次のパンデミックも視野に入れつつ、(1) 同調の社会的メカニズムや感染対策の習慣化のあり方、(2) 科学的助言の体制作り、(3) 社会での対策の合理化・最適化に対峙する。

本研究では、以下の疑問点について明示的な回答を与えるべく研究実施に着手した：

1. 同調が存在する社会は良かったのか？同調が圧力となって作用したことの問題点とは何か？
2. 科学的助言を行い、呼び掛けを行う主体はどこであるべきか。ガイドラインとして科学的情報の発信源について一定のルール作りを行うことは可能か？
3. 無批判に「もと通りの暮らし」に戻るのではなく、流行対策がカスタマイズされて習慣化された「つらくない社会」とは日本ではどのようなものか？どのようにすれば継続可能なのか。

上記のゴールは設定するが、進捗に応じて柔軟に研究アウトプットや提言の周知についてゴールの設定をより拡大することを含めて検討するよう努めた。

2 - 2. 実施内容・結果

(1) スケジュール

具体的な分析対象に分けて以下の実施項目に取り組んだ。

まずは、現在着手している要請ベースの流行対策の評価研究と同調の特性を捉えたモデリング研究に取り組み、同調や科学的エビデンスに基づく呼び掛けに関連する問題点の是正に関する在り方について可能な限り早く創出した上で勉強会報告を開始した。研究期間全体を通じて、同僚組みの研究成果を省庁や政治のニーズによらない場で研究として完遂させたいと実装経験のための勉強会での報告を積み重ねるよう努めた。また、国際比較や習慣化レビューと専門家インタビューにはそれぞれ初年度から取り組みはじめてきた。

2年度目には、要請に基づく流行対策の事後評価に定量的に取り組む作業に着手した。

研究開発の実施項目	令和4 (2022)年 度	令和5 (2023)年 度	令和6 (2024)年 度	令和7 (2025)年 度
要請に基づく流行対策の評価・因果推論	←	←	←	→
同調・呼び掛けに関するモデリング		←	←	→
要請ベースの政策に係る提言書の作成		←	←	→
海外類似事象の調査	↔			
COVID19関係者への取材	←	←	→	
発信された情報の拡散データの取得・解析		↔	←	→
行動変容データの取得・解析		←	←	→
習慣化の文献的レビューと事例検討	←	←	←	→
感染予防における同調の検討	←	←	←	→
数理モデルと心理学の協働分析			←	→

(2) 各実施内容

【当該年度の到達点】

要請に基づく流行対策の評価・因果推論

実施項目(1)-①：要請に基づく流行対策の評価・因果推論

実施内容：

要請に基づく流行対策の評価について3年半を通じた研究計画を細分化し、また、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置、および、それらとヒトの移動・行動（夜間繁華街滞留）などとの関係に関して研究に着手する。

期間：令和4年10月～令和8年3月

実施者：西浦 博（《京都大学》・《教授》）ら

科学コミュニケーション：海外類似事象の調査、および、COVID-19関係者への取材

実施項目(2)-①、②：海外の類似事象との比較検証、関係者への取材と解析

実施内容：

海外の先行事例も踏まえたうえで、パンデミック時における有効な情報発信体制の構築を提案するための分析に着手する。また、政府、感染症専門家、他の科学者、メディア等から、多様な媒体を通して多様な情報が発信されたことで社会に混乱が生じたが、その経緯とディスコミュニケーションが生じた原因を、主要な当事者に対する調査を行う

ことで明らかにする。令和5年度は調査の着手年とし、まずは予防接種の決断に係る情報源について調査検討を行った。

期間：令和4年10月～令和8年3月

実施者：野口 範子（《同志社大学》・《教授》）ら

習慣化の文献的レビューと事例検討、感染予防における同調の検討

実施項目(3)-①、②：習慣化の文献的レビューと事例検討、感染予防における同調の検討

実施内容：

本研究グループのキーワードは「同調」および「習慣化」である。新型コロナウイルス感染症の流行を通じて「日本人はなぜマスクをするのか」が問われており、そこには一定の同調圧力が存在したことが示唆されている。それは「他人の目を気にしているから」生じた行動であり、時期とともに変化が生じたと思われる。社会心理学者の立場から、同調の社会的メカニズムや習慣化の過程について検討を行い、「つらくない」ニューノーマルの作り方に関する見解を提供するが、令和5年度はそのための研究の着手時期とし、マスク着用の同調度合いと習慣化の状況に関する調査検討を実施した。習慣化の成功事例に関してはレビューに着手し、同調に関しては検討対象や方法の詳細について相談を行う。

期間：令和4年10月～令和8年3月

実施者：碓井 真史（《新潟青陵大学》・《教授》）、および、西浦 博（《京都大学》・《教授》）ら

【当該年度の主な予定】

令和5年4月 感染症類型変更に係るインタビュー対応・勉強会

令和5年8月 内閣官房との相談対応

令和5年10月 総括進捗報告

令和5年12月-令和6年2月 書籍発行相談

令和6年1月 プロジェクト内研究進捗相談会議

(3) 成果

要請に基づく流行対策の評価・因果推論

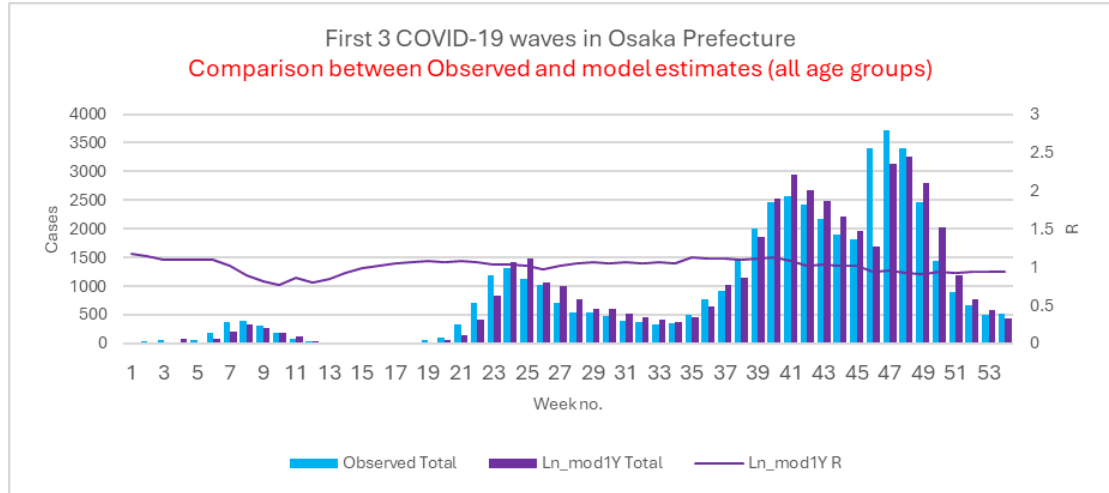
実施項目(1)-①：要請に基づく流行対策の評価・因果推論

以下に関して顕著な成果が得られた。

・流行評価に関する分析

2020年の第1波-3波における繁華街の夜間滞留人口に着目して、流行へのインパクトを定量化することを試みている。大阪府の夜間（10pm-2am）繁華街における匿名化されたGPS情報を用いた線形モデルを構築し、観察値に基づく感染者数に適合させ実効再生産数（ある時刻における一人の感染者が生み出す二次感染者数の平均値）を推定した。下記の図で青色棒グラフは感染者数、紫色棒グラフはモデルによって推定された感染者数をそれぞれ表している。紫色の実線がモデルによって再構築された感染者数に基づいて計算された実効再生産数である。現在は、この流行を再構築したモデルを活用して、滞留人口が観

察された値と異なった場合（少なかった／多かったといった）における反事実仮想シナリオでの実効再生産数を推定し、夜間繁華街滞留人口の流行への寄与に関する評価分析を実施中である。今後、夜間繁華街滞留人口の評価に関して原著論文として報告予定である。

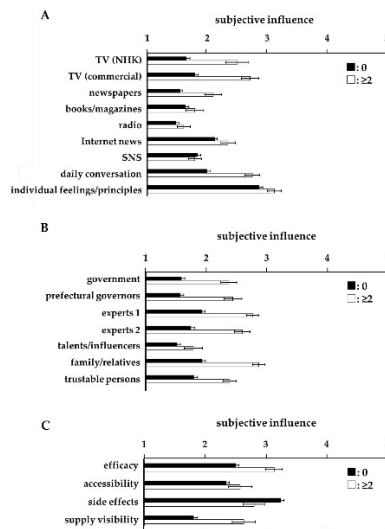


**科学コミュニケーション：海外類似事象の調査、および、COVID-19関係者への取材
実施項目(2)-①、②：海外の類似事象との比較検証、関係者への取材と解析**

以下に関して顕著な成果が得られた。

- ・ 予防接種の情報取得に関する分析と論文執筆・出版

東京都民2,000人を対象にインターネット調査を実施し、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種と関連情報取得の関連性を探索した。下の図はワクチン未接種者と接種者（2回以上）の（A）情報源となるメディア、（B）情報の提供者、（C）情報の内容に関するそれぞれの主観的影響スコアを示している。新聞などの伝統的なメディアとワクチン接種率には正の相関が認められ、女性においては日常会話が接種率と強い正の相関が認められた。また、若年層では家族からの情報がワクチン接種率に正の影響を与えていることが分かった。これらによって、予防接種に関する情報をパンデミック中に適切に提供するためには、年齢や性別の違いに配慮する必要性が示唆された。



Noguchi N, Yokoi R, Masu T, Watanabe M, Itoh S, Yumoto S. Association of COVID-19 information media, providers, and content with vaccine uptake among Tokyo residents. *Vaccine X*. 2023 Nov 19;15:100411. doi: 10.1016/j.jvacx.2023.100411.

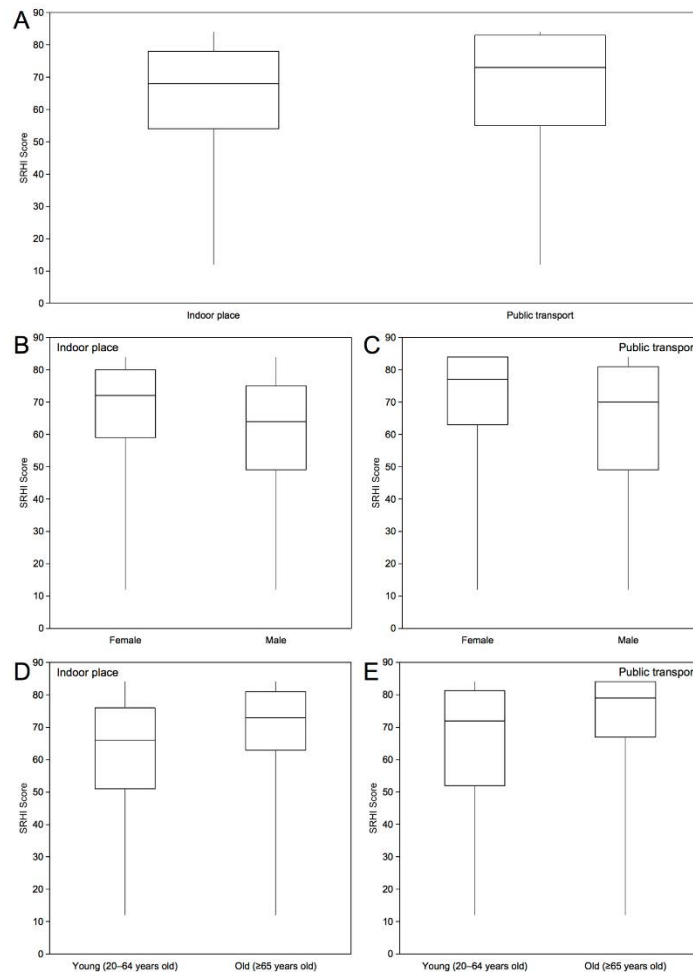
習慣化の文献的レビューと事例検討、感染予防における同調の検討

実施項目(3)-①、②：習慣化の文献的レビューと事例検討、感染予防における同調の検討

以下に関して顕著な成果が得られた。

・マスク着用の習慣化に関する分析と論文執筆・出版

インターネットを利用した横断調査を実施して、その背後にある心理的理由を探索した。SRHI (Self-Report Habit Index) と呼ばれる指標を活用し、心理的理由とマスク着用頻度の関連を分析した。下の図は異なるサブグループにおけるSRHIスコアの分布を示している (A: 屋内空間/公共交通機関、B: 屋内空間における女性/男性、C: 公共交通機関における女性・男性、D: 屋内における若年層 (20-64歳) /高齢者 (65歳以上)、E: 公共交通機関における若年層/高齢者)。マスクを全く着用していない調査参加者はわずか4.9%であり、多くの人々が社会的規範に従ってマスク着用を継続していることが明らかにされた。年齢群別で有意な差は認められなかったが、男性よりも女性で着用率が高かった。また、屋内よりも公共交通機関利用中の着用において高い習慣度が示され、日常生活を送る上での習慣の一部となっている実態が示された。



Li T, Fujimoto M, Hayashi K, Anzai A, Nishiura H. Habitual Mask Wearing as Part of COVID-19 Control in Japan: An Assessment Using the Self-Report Habit Index. Behav Sci (Basel). 2023 Nov 19;13(11):951. doi: 10.3390/bs13110951.

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

当プロジェクトは新型コロナウイルス感染症の流行が進む中で進めている実践的研究であり、その展開が比較的早い。例えば、マスク着用に関連する研究などは、政府の方針決定に対応するかたちで柔軟に研究を実施している。これまでに、プロジェクトではその速度に対応した研究が展開されており、十分な進捗を得ることが出来ている。

令和6年度からは科学コミュニケーショングループで、予防接種に限らず、マスク着用や予防行動に関するインタビューと判断根拠の社会調査を開始する。また、マスク着用に関しては、自己判断による着用が流行に与える影響を定量化するために、数理モデルを活用した反事実シナリオ（マスク着用を選択しないなど）の検討を行う。

2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2023年8月1 -10日	感染症数理モデル短期コース	キャンパスプラザ京都・京都教育センター	感染症数理モデルの基礎的考え方や取扱い・発展の方法・データ分析および批判的吟味について、短期集中型の入門教育機会を提供する短期集中講義を開講
2023年10月 10日	RISTEX政策：総括面談	オンライン	プロジェクトの進捗説明や研究相談を含めた総括会議
2024年1月 31日	連携協議相談	オンライン	京都大学および同志社大学のチームメンバーでの研究相談

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

・新型コロナウイルス感染症対策としてのマスク着用が個人判断に委ねられ、5類に移行するなど政策的・社会的な緩和が起こったことに対して、リスク評価に関するコミュニケーションを積極的に行った

2023年3月13日以降、新型コロナ対策としてのマスク着用の判断は個人に委ねられることとなった。さら、新型コロナウイルス感染症が2023年5月8日に「新型インフルエンザ等感染症（2類相当）」から「5類」へと変更された。そうした変遷に対し、今後も一定の警戒が必要であるという注意喚起を含め、メディアでのインタビューなどを介して社会全体に対してリスク評価のコミュニケーションに積極的に取り組んだ。

以下に上述した事例を挙げる。

- ・ コロナ5類移行後「定点把握」で流行監視どうなる？【詳しく】（NHK、2023年4月12日）
https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/category5/detail/detail_44.html
- ・ 新型コロナ、5類移行へ 「インフル並み」なら安心か（日本経済新聞、2023年4月14日）
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD1131Q0R10C23A4000000/>
- ・ 第9波は「第8波より大きな流行になる可能性も」、押谷氏ら（m3.com医療維新、2023年4月19日）
<https://www.m3.com/news/open/iryoishin/1134011>
- ・ じわり感染拡大中…もし「第9波」が来たら大丈夫？ 新型コロナ、5月に感染法上「5類」に引き下げ（東京新聞TOKYO Web、2023年4月14日）
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/243972>
- ・ パンデミックの先に コロナは流行繰り返す「エンデミック」へ 西浦博氏が鳴らす警鐘（毎日新聞、2023年5月5日）
<https://mainichi.jp/articles/20230501/k00/00m/040/108000c>
- ・ パンデミックの先に 「命奪うのに最適に進化」 西浦教授がまだまだ恐れる新型コロナ（毎日新聞、2023年5月5日）
<https://mainichi.jp/articles/20230501/k00/00m/040/110000c>
- ・ パンデミックの先に 「第9波」被害拡大も 京都大教授・西浦博さん（毎日新聞、2023年5月6日）
<https://mainichi.jp/articles/20230506/ddm/002/040/099000c>
- ・ 政治に翻弄されたコロナ5類移行 専門家が議論し尽くせなかったこと（朝日新聞デジタル、2023年5月6日）
<https://www.asahi.com/articles/ASR526V08R51UTFL00S.html>
- ・ コロナ5類移行 「第9波」なお警戒医療体制に懸念も 岸田政権、問われる結果責任<フォーカス>（北海道新聞、2023年5月7日）
<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/842137/>
- ・ 新型コロナ5類移行 普通の風邪にはなお時間 変異株発生に警戒を【表層深層】（あなたの静岡新聞、2023年5月8日）
<https://www.at-s.com/news/article/national/1236545.html>

- ・ コロナ5類「科学ではなく空気で決まった」西浦教授が指摘する課題（朝日新聞デジタル、2023年5月9日）

<https://www.asahi.com/articles/ASR5155P3R4GUTFL01N.html>

- ・ 新型コロナ、インフル並みの感染症法上の5類に 対策の大転換に流行再拡大の懸念も（Science Portal、2023年5月9日）

https://scienceportal.jst.go.jp/explore/review/20230509_e01/

- ・ 書籍などの出版を通じて研究内容の紹介を行った

渡辺政隆が共著となって『知の統合は可能か—パンデミックに突き付けられた問い』

（時事通信社、瀬名秀明、渡辺政隆、押谷仁、小坂健）を出版し、新型コロナウイルス感染症に係る科学コミュニケーションにまつわる問題や関連する課題について対談形式で解説した文書を出版物として残す機会を得た。特に、その一部は以下のように時事通信社の報道として報告され、科学が社会の中で活用される道筋の重要性について記述する機会を得た。

<瀬名秀明×渡辺政隆>パンデミックは、科学なしでも科学だけでも解決できない

<https://www.jiji.com/jc/v4?id=20230331booknavi0220001>

さらに、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種判断の情報源について詳細な調査を行い、分析結果を学術論文として国際科学誌に出版した。下の表は情報源（情報の提供者）と接種の関連性を評価したものである。予防接種に関する情報は画一的に提供するのではなく、年齢や性別に注意してアウトリーチを測ることの重要性が示された。

Variables	β	OR	p -value	VIF
sex	-0.053 [-0.139-0.033]	0.777 [0.515-1.172]	0.230	1.026
age	0.170 [0.085-0.255]	1.023 [1.011-1.034]	< 0.001	1.101
government	0.088 [-0.038-0.214]	1.209 [0.921-1.587]	0.171	2.768
prefectural governors	0.295 [0.178-0.413]	1.867 [1.457-2.394]	< 0.001	2.705
experts 1	0.078 [-0.034-0.190]	1.166 [0.936-1.453]	0.171	2.902
experts 2	0.123 [0.007-0.238]	1.283 [1.015-1.622]	0.037	3.325
talents and influencers	-0.229 [-0.342- -0.116]	0.545 [0.404-0.735]	< 0.001	1.598
family and relatives	0.218 [0.129-0.306]	1.524 [1.284-1.809]	< 0.001	1.631
trustable persons	-0.064 [-0.171-0.044]	0.873 [0.694-1.097]	0.244	1.872
government × sex	-0.071 [-0.191-0.048]	0.735 [0.439-1.231]	0.242	2.791
prefectural governors × sex	0.050 [-0.060-0.161]	1.237 [0.776-1.972]	0.372	2.655
experts 1 × sex	0.046 [-0.054-0.146]	1.197 [0.807-1.776]	0.371	2.883
experts 2 × sex	0.029 [-0.082-0.141]	1.127 [0.716-1.774]	0.606	3.281

Variables	β	OR	p-value	VIF
talents and influencers × sex	0.019 [-0.083–0.121]	1.103 [0.643–1.894]	0.721	1.590
family and relatives × sex	-0.082 [-0.172–0.008]	0.727 [0.513–1.030]	0.073	1.591
trustable persons × sex	0.004 [-0.098–0.106]	1.016 [0.656–1.572]	0.945	1.852
government × age	0.015 [-0.103–0.134]	1.002 [0.988–1.016]	0.804	2.856
prefectural governors × age	0.144 [0.028–0.260]	1.016 [1.003–1.030]	0.015	2.817
experts 1 × age	0.074 [-0.043–0.191]	1.008 [0.995–1.021]	0.215	2.696
experts 2 × age	0.061 [-0.058–0.180]	1.007 [0.993–1.020]	0.317	3.078
talents and influencers × age	-0.054 [-0.163–0.056]	0.993 [0.977–1.008]	0.337	1.662
family and relatives × age	-0.105 [-0.191– -0.018]	0.989 [0.980–0.998]	0.017	1.590
trustable persons × age	-0.106 [-0.215–0.002]	0.988 [0.975–1.000]	0.054	1.832

括弧内は95%信頼区間を表す。 β は標準化偏回帰係数、ORはオッズ比、VIFは分散拡大係数、experts 1は専門家1（医師、医師会長）、experts 2は専門家2（新型コロナウイルス感染症対策専門家会議、新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボード）を意味している。

Noguchi N, Yokoi R, Masu T, Watanabe M, Itoh S, Yumoto S. Association of COVID-19 information media, providers, and content with vaccine uptake among Tokyo residents. *Vaccine X*. 2023 Nov 19;15:100411. doi: 10.1016/j.jvacx.2023.100411.

4. 研究開発実施体制

研究は3つのチームに分けて運営している。チーム①（京都大学・西浦博、岡田雄大、小林鉄郎、林克磨、茅野大志ら）は要請に基づく流行対策の政策評価研究を実施し、これまでの流行対策の有効性について呼び掛けとの関連を踏まえて検討する。また、同調のメカニズムを加味した数理モデルや科学的な呼び掛けのゲーム理論などに関する検討を他チームと共同で実施することによって、同調や科学コミュニケーションが本流行の対策に果たした役割とその問題点を一般化する。チーム②（同志社大学・野口範子、渡辺政隆、榎太一）は科学コミュニケーションに携わる立場から、日本が海外と比較してどれだけ特異的だったのか国際比較や専門家等への取材を通じて解析し、また、発信された情報の拡散データの取得と解析を行う。一連の研究を通じて、科学的助言に係る情報の発信源やその伝達のあり方に関する提言を行う。チーム③（新潟青陵大学・碓井真史）は社会心理学者の立場から同調という判断根拠が選ばれる社会の構造について、その特性と問題点を検討し、マスク着用や感染予防行動が習慣化できるかどうかを文献的レビューと数理モデルとの協働研究を通じて明らかにする過程を通じて、同調の誘発のあり方と問題点について取

りまとめる。

(1) 感染症予防理論グループ (西浦博)

京都大学大学院医学研究科

実施項目①： 要請に基づく流行対策の評価・因果推論

グループの役割の説明： 本研究は数理モデル研究を専門とし、また、それに基づいて新型コロナウイルス感染症の対策に関する科学的助言に携わった立場であり、数理的な分析とそれぞれのプロジェクト研究を統括し、また、その成果取り纏めを行う。

実施項目②： 同調・呼び掛けに関するモデリング

グループの役割の説明： 同調のメカニズムを加味した数理モデルや科学的な呼び掛けのゲーム理論などに関する検討を他チームと共同で実施することによって、同調や科学コミュニケーションが本流行の対策に果たした役割とその問題点を一般化する。

実施項目③： 要請ベースの政策に係る提言書の作成

グループの役割の説明： 日本に特異的であった要請に基づく流行対策の政策評価研究を実施し、これまでの流行対策の有効性について呼び掛けとの関連を踏まえて検討する。

(2) 科学コミュニケーショングループ (野口範子)

同志社大学大学院生命医科学研究科

同大学 ハリス理化学研究所

実施項目①： 海外の類似事象との比較検証

グループの役割の説明： 海外の先行事例も踏まえたうえで、パンデミック時における有効な情報発信体制の構築を提案する。

実施項目②： 関係者への取材と解析

グループの役割の説明： 相互理解は専門家と政府、専門家と一般市民、そして専門家と専門家の全てにおいて行われる必要がある。COVID-19をめぐる対応においては、政府、感染症専門家、他の科学者、メディア等から、多様な媒体を通して多様な情報が発信されたことで、社会に無用の混乱が生じた。その経緯とディスコミュニケーションが生じた原因を、主要な当事者に対する調査を行うことで明らかにする。

実施項目③： 発信された情報の拡散データの取得・解析

グループの役割の説明： 無理のない適切な行動変容に多くの人々を速やかに導くうえで弊害となるコミュニケーション上の要素を明らかにする。

実施項目④： 行動変容データの取得・解析

グループの役割の説明：COVID-19対策においてなされてきたサイエンスコミュニケーションの問題点の検証と新たな対応策の提案を行うことを目指す。本研究グループのキーワードは「相互理解のためのリスクコミュニケーション」である。

(3) 感染予防の社会心理学グループ (碓井真史)

新潟青陵大学大学院臨床心理学研究科

実施項目①： 習慣化の文献的レビューと事例検討

グループの役割の説明：習慣化の事例に関する文献的検討とその要因に関する考察

実施項目②： 感染予防における同調の検討

グループの役割の説明：感染症予防を図る上での同調行動に関するレビューの実施

実施項目③： 数理モデルと心理学の協働分析

グループの役割の説明：数理モデルとの協働による同調行動の誘発・持続と最適な対策のあり方の検討

5. 研究開発実施者

感染症予防理論グループ（リーダー氏名：西浦博）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
西浦 博	ニシウラ ヒロシ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	教授
岡田 雄大	オカダ ユ ウタ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	特定講師
小林 鉄郎	コバヤシ テツロウ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	助教
林 克磨	ハヤシ カ ツマ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	特定助教
茅野 大志	カヤノ タ イシ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	特定助教
リュウ シギイ	リュウ シ ギイ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
チャン ドン	チャン ド ン	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
ハン ムリン	ハン ムリ ン	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
植田 陽	ウエダ ミ ナミ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
雨宮 優里	アメミヤ ユウリ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
藤原 聖子	フジワラ セイコ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
永田 万結	ナガタ マ ユ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
西村 友里	ニシムラ ユリ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
リ ティアンウェ ン	リ ティア ンウェン	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
チャオ ジャイン	チャオ ジ ャイン	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
ミン テイン	ミン テイ ン	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	大学院生
林 陽香	ハヤシ ハ ルカ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	研究員

三山 豪士	ミヤマ タ ケシ	国立大学法人京 都大学	大学院医学研 究科	客員研究員
-------	-------------	----------------	--------------	-------

科学コミュニケーショングループ（リーダー氏名：野口範子）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
野口範子	ノグチノリ コ	同志社大学	大学院生命医 科学研究科	教授
渡辺政隆	ワタナベマ サタカ	同志社大学	大学院生命医 科学研究科	特別客員教授
榎太一	マスタイチ	同志社大学	ハリス理化学 研究所	助教

感染予防の社会心理学グループ（リーダー氏名：碓井 真史）

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
碓井 真史	ウスイ マ フミ	新潟青陵大学	大学院臨床心 理学研究科	教授

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	主催者	場所	参加人数	概要
2023年4月22日	感染症の理論疫学者：COVID-19のデータ分析をして	日本医学会総会	国内	120人＋オンライン	COVID-19流行における感染症数理モデルの活用と政策実装について振り返り
2023年8月16日	新興感染症の疫学研究	第23回社会医学サマナーセミナー	国内	55人	社会医学を志す医学部生を対象に本PJの紹介と社会実装上の問題について紹介
2023年8月30日	コロナ・パンデミックの今後	日本学術会議・学術フォーラム	国内	105人＋オンライン	パンデミックの中長期的見通しの解説において本PJ紹介を盛り込み

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・奔流 コロナ「専門家」はなぜ消されたのか、広野真嗣、講談社、2024年1月17日
- ・1100日間の葛藤 新型コロナ・パンデミック、専門家たちの記録、尾身茂、日経BP、2023年9月22日

(2) ウェブメディアの開設・運営

- ・SNSアカウント（twitterにて研究代表者・西浦博、@nishiurah）

(3) 学会（6-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・21世紀保健医療フォーラム、新型コロナウイルス感染症の疫学研究、西浦博、2023年4月18日、国内
- ・Universität Hamburg - Kyoto University Symposium、Modelling human-animal interface: SARS, MERS and COVID-19、西浦博、2023. 2023年6月19日、国際
- ・大阪府医師会研修会、新型コロナウイルス感染症：外来診療含む現在の流行状況と見通し、西浦博、2023年7月6日、国内
- ・日本科学ジャーナリスト会議、5 類移行後の新型コロナ流行の現状と課題、西浦博、2023年7月18日、国内

- ・ 三楽会、新型コロナウイルス感染症の現状と今後についての分析紹介、西浦博、2023年7月25日、国内
- ・ 第3回東京iCDC専門家ボードと報道機関の勉強会、新型コロナウイルス感染症の最近の状況と今後の見通しについて、西浦博、2023年8月2日、国内
- ・ 慶応義塾大学社会薬学セミナー、新型コロナウイルス感染症の疫学と数理モデル研究、西浦博、2023年9月11日、国内
- ・ Kyoto Symposium celebrating the visit by Professor Bryan Grenfell、COVID-19 transmission in the night town、西浦博、2023年11月12日、国際
- ・ 学術講演会 長崎県立大学、新型コロナウイルス感染症のこれまでの流行動態と今後の見通し、西浦博、2023年11月17日、国内
- ・ ワンヘルスネットワーク研究会、COVID-19伝播の異質性に関する直近までの理解について、西浦博、2023年12月2日、国内
- ・ 大分感染症セミナー、感染症の数理モデルと観察データ：COVID-19を中心に、西浦博、2024年2月15日、国内
- ・ The U.S.-Japan Cooperative Medical Sciences Program (USJCMSP)、Real-time causal inference of COVID-19 interventions using counterfactual reproduction number、西浦博、2024年3月5日、国際

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (28 件)

●国内誌 (0 件)

●国際誌 (28 件)

- ・ Kinoshita R, Arai S, Suzuki M, Nishiura H. Identifying the Population Susceptible to Rubella in Japan, 2020: Fine-Scale Risk Mapping. *Journal of Infection and Public Health* 2024; in press (doi: 10.1016/j.jiph.2024.03.029)
- ・ Okada Y, Nishiura H. Estimating the effective reproduction number of COVID-19 from population-wide wastewater data: An application in Kagawa, Japan. *Infectious Disease Modelling* 2024; 9:645-656. Doi: 10.1016/j.idm.2024.03.006
- ・ Nishiura H, Fujiwara S, Imamura A, Shirasaka T. HIV incidence before and during the COVID-19 pandemic in Japan. *Mathematical Biosciences and Engineering* 2024;21:4874-4885. Doi: 10.3934/mbe.2024215
- ・ Zhang T, Qiao J, Hayashi K, Nishiura H. Decomposing mechanisms of COVID-19 mortality in empirical datasets: A modeling study. *J Theor Biol.* 2024 May 7;584:111771. doi: 10.1016/j.jtbi.2024.111771.
- ・ Qiao J, Nishiura H. Public holidays increased the transmission of COVID-19 in Japan, 2020-2021: a mathematical modelling study. *Epidemiol Health.* 2024 Jan 22:e2024025. doi: 10.4178/epih.e2024025.
- ・ Akhmetzhanov AR, Jung SM, Lee H, Linton NM, Yang Y, Yuan B, Nishiura H. Reconstruction and analysis of the transmission network of African swine fever in People's Republic of China, August 2018-September 2019. *Epidemiol*

- Infect. 2024 Jan 29;152:e27. doi: 10.1017/S0950268824000086.
- Kayano T, Kobayashi T, Fujiwara S, Okada Y, Nishiura H. Survey of exposure to stranded dolphins in Japan to investigate an outbreak of suspected infection with highly pathogenic avian influenza (H5N1) clade 2.3.4.4(b) in humans. *New Microbes New Infect.* 2023 Dec 16;56:101214. doi: 10.1016/j.nmni.2023.101214.
 - Liu S, Anzai A, Nishiura H. Reconstructing the COVID-19 incidence in India using airport screening data in Japan. *BMC Infect Dis.* 2024 Jan 2;24(1):12. doi: 10.1186/s12879-023-08882-w.
 - Anzai A, Yamasaki S, Bleichrodt A, Chowell G, Nishida A, Nishiura H. Epidemiological impact of travel enhancement on the inter-prefectural importation dynamics of COVID-19 in Japan, 2020. *Math Biosci Eng.* 2023 Dec 5;20(12):21499-21513. doi: 10.3934/mbe.2023951.
 - Li T, Fujimoto M, Hayashi K, Anzai A, Nishiura H. Habitual Mask Wearing as Part of COVID-19 Control in Japan: An Assessment Using the Self-Report Habit Index. *Behav Sci (Basel).* 2023 Nov 19;13(11):951. doi: 10.3390/bs13110951.
 - Munira MS, Okada Y, Nishiura H. Life-expectancy changes from 2019 to 22: A case study of Japan using provisional death count. *J Infect Public Health.* 2024 Jan;17(1):119-121. doi: 10.1016/j.jiph.2023.11.016. Epub 2023 Nov 11.
 - Kayano T, Nishiura H. Assessing the COVID-19 vaccination program during the Omicron variant (B.1.1.529) epidemic in early 2022, Tokyo. *BMC Infect Dis.* 2023 Oct 31;23(1):748. doi: 10.1186/s12879-023-08748-1.
 - Kayano T, Ko Y, Otani K, Kobayashi T, Suzuki M, Nishiura H. Evaluating the COVID-19 vaccination program in Japan, 2021 using the counterfactual reproduction number. *Sci Rep.* 2023 Oct 18;13(1):17762. doi: 10.1038/s41598-023-44942-6.
 - Fujimoto M, Hayashi K, Nishiura H. Possible adaptation measures for climate change in preventing heatstroke among older adults in Japan. *Front Public Health.* 2023 Sep 22;11:1184963. doi: 10.3389/fpubh.2023.1184963. eCollection 2023.
 - Munira MS, Okada Y, Nishiura H. Life-expectancy changes during the COVID-19 pandemic from 2019-2021: estimates from Japan, a country with low pandemic impact. *PeerJ.* 2023 Aug 16;11:e15784. doi: 10.7717/peerj.15784. eCollection 2023.
 - Okada Y, Yamasaki S, Nishida A, Shibasaki R, Nishiura H. Night-time population consistently explains the transmission dynamics of coronavirus disease 2019 in three megacities in Japan. *Front Public Health.* 2023 Jun 21;11:1163698. doi: 10.3389/fpubh.2023.1163698.
 - Amemiya Y, Li T, Nishiura H. Age-dependent final size equation to anticipate mortality impact of COVID-19 in China. *Math Biosci Eng.* 2023 Apr 27;20(6):11353-11366. doi: 10.3934/mbe.2023503.

- Nakajo K, Nishiura H. Age-Dependent Risk of Respiratory Syncytial Virus Infection: A Systematic Review and Hazard Modeling From Serological Data. *J Infect Dis.* 2023 Nov 11;228(10):1400-1409. doi: 10.1093/infdis/jiad147.
- Amemiya Y, Nishiura H. Combined effect of early diagnosis and treatment on the case fatality risk of COVID-19 in Japan, 2020. *Sci Rep.* 2023 Apr 24;13(1):6679. doi: 10.1038/s41598-023-33929-y.
- Zhang T, Nishiura H. Estimating infection fatality risk and ascertainment bias of COVID-19 in Osaka, Japan from February 2020 to January 2022. *Sci Rep.* 2023 Apr 4;13(1):5540. doi: 10.1038/s41598-023-32639-9.
- Suzuki A, Nishiura H. Seasonal transmission dynamics of varicella in Japan: The role of temperature and school holidays. *Math Biosci Eng.* 2023 Jan;20(2):4069-4081. doi: 10.3934/mbe.2023190.
- Zhang T, Nishiura H. COVID-19 cases with a contact history: A modeling study of contact history-stratified data in Japan. *Math Biosci Eng.* 2023 Jan;20(2):3661-3676. doi: 10.3934/mbe.2023171.
- Okada Y, Kayano T, Anzai A, Zhang T, Nishiura H. Protection against SARS-CoV-2 BA.4 and BA.5 subvariants via vaccination and natural infection: A modeling study. *Math Biosci Eng.* 2023 Jan;20(2):2530-2543. doi: 10.3934/mbe.2023118.
- Nishiura H, Kayano T, Hayashi K, Kobayashi T, Okada Y. Knowledge gap in assessing the risk of a human pandemic via mammals' infection with highly pathogenic avian influenza A(H5N1). *Euro Surveill.* 2023 Mar;28(9):2300134. doi: 10.2807/1560-7917.ES.2023.28.9.2300134.
- Ueda M, Hayashi K, Nishiura H. Identifying High-Risk Events for COVID-19 Transmission: Estimating the Risk of Clustering Using Nationwide Data. *Viruses.* 2023 Feb 6;15(2):456. doi: 10.3390/v15020456.
- Amemiya Y, Inoue S, Maeda K, Nishiura H. Epidemiological Associations between Rabies Vaccination and Dog Owner Characteristics. *Vaccines (Basel).* 2023 Feb 3;11(2):352. doi: 10.3390/vaccines11020352.
- Sasanami M, Fujimoto M, Kayano T, Hayashi K, Nishiura H. Projecting the COVID-19 immune landscape in Japan in the presence of waning immunity and booster vaccination. *J Theor Biol.* 2023 Feb 21;559:111384. doi: 10.1016/j.jtbi.2022.111384.
- Noguchi N, Yokoi R, Masu T, Watanabe M, Itoh S, Yumoto S. Association of COVID-19 information media, providers, and content with vaccine uptake among Tokyo residents. *Vaccine X.* 2023 Nov 19;15:100411. doi: 10.1016/j.jvacx.2023.100411.

(2) 査読なし (0 件)

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 5 件、国際会議 3 件)

- ・西浦博、COVID-19の疫学：ここまでにわかったことと問題点、第120回日本内科学会講演会、2023年4月13日、国内
- ・西浦博、新型コロナウイルス感染症の疫学と数理モデル、第63回日本呼吸器学会学術講演会、2023年4月28日、国内
- ・西浦博、Night-time population consistently explains the transmission dynamics of coronavirus disease 2019 in three megacities in Japan、CMPD6、023年5月26日、国際
- ・西浦博、Identifying High-Risk Events and Sequence of High-Risk Clusters of COVID-19 Transmission in Japan、International Pandemic Sciences Conference、Oxford、2023年7月11日、国際
- ・西浦博、新型コロナウイルス感染症のリスク評価、フォーサム2023大阪/第59回日本眼感染症学会、023年7月9日、国内
- ・西浦博、COVID-19の予防接種による人口レベルの効果推定、ランチョンセミナー 日本産業衛生学会全国協議会、2023年10月28日、国内
- ・西浦博、COVID-19 transmission in the night town、Epidemics2023、2023年11月30日、国際
- ・西浦博、新型コロナウイルス感染症の疫学と対策、第37回日本エイズ学会学術集会・総会、2023年12月3日、国内

(2) 口頭発表 (国内会議 36 件、国際会議 2 件)

- ・西浦博、死亡者のいる家庭のインタビューを通じたオミクロン株流行中の死亡分析、第75回人口学会大会、2023年6月11日、国内
- ・西浦博、水痘への影響予測、日本数理生物学会年会、2023年9月4日、国内
- ・西浦博、新型コロナウイルス感染症の緩和後の伝播動態と人口学的インパクト、生体防御学会、2023年9月28日、国内
- ・茅野大志、西浦博、オミクロン株流行期における予防接種プログラムの評価、2023年度日本数理生物学会(奈良)、2023年9月4日、国内
- ・茅野大志、西浦博、高病原性鳥インフルエンザH5N1のサーベイランスデータを用いたヒト感染の時空間予測、第94回日本衛生学会学術総会(鹿児島)、2024年3月8日、国内
- ・永田万結、岡田雄大、西浦博、マスク着用の推奨停止に伴う新型コロナウイルス感染症の疫学的インパクトの因果推論、日本衛生学会(鹿児島)、2024年3月9日、国内
- ・ZHANG TONG、西浦博、新型コロナウイルス感染症の死亡リスクと診断バイアス:2020年2月から2022年1月の大阪府データからの推定、2023年日本数理生物学会年会(奈良市)、2023年9月、国内
- ・ZHANG TONG、QIAO JIAYING、林克磨、西浦博、COVID-19と超過死亡メカニズムの分解モデルの構築、第82回公衆衛生学会総会(つくば市)、2023年11月、国内
- ・ZHANG TONG、QIAO JIAYING、林克磨、西浦博、COVID-19による超過死亡メカニズムの分解モデル、第94回日本衛生学会学術総会(鹿児島市) 2024年3月、国内
- ・雨宮優理、西浦博、早期治療・早期診断がCOVID-19の致死率に及ぼす影響、数理生物学会年会(奈良)、2023年9月4日、国内
- ・雨宮優理、井上智、前田健、西浦博、都道府県別の犬個体群における狂犬病免疫保有割

- 合の推定と影響因子の分析、日本衛生学会学術総会(鹿児島)、2024年3月7日、国内
- ・ Jiaying Qiao, Hiroshi Nishiura、Quantifying the transmission dynamics of COVID-19 accounting for variant-specific immune response、The 94th Annual Meeting of the Japanese Society for Hygiene, Kagoshima, Japan, 2024.3.8、国内
 - ・ Jiaying Qiao, Hiroshi Nishiura、Public Holidays Elevated the Transmission Frequency of COVID-19 in Japan, 2020–2021: A Mathematical Modelling Study、The 82nd Annual Meeting of Japanese Society of Public Health, Tsukuba, Japan, 2023.10.31、国内
 - ・ Menglin Fan, 西浦博、Estimation of the relative advantages of the susceptibility and transmissibility of the Omicron variant (B.1.1.529) compared with the Delta variant (B.1.617) in Japan, 2021–22、公衆衛生学会(つくば国際会議場)、2023年11月1日、国内
 - ・ Menglin Fan, 西浦博、Estimating relative advantages of Omicron over Delta : Susceptibility & Transmissibility in Japan、日本疫学会学術総会(びわ湖大津プリンスホテル)、2024年2月1日、国
 - ・ 藤原聖子, 西浦博、オミクロン株流行化の新型コロナウイルス感染症の家庭内伝播リスクに関する横断的研究、第33回日本疫学会学術総会、2023年2月1日から3日、国内
 - ・ 藤原聖子, 西浦博、年齢構造化モデルによる日本国内のHIV感染者数と診断比率の年齢群別推定、第93回日本衛生学会学術総会、2023年3月4日、国内
 - ・ 藤原聖子, 西浦博、日本国内のHIV感染者数と診断比率の年齢群別推定. 2023年度数理生物学会年会、2023年9月6日、国
 - ・ 藤原聖子, 西浦博、オミクロン株流行下の新型コロナウイルス感染症の家庭内伝播データを活用した予防接種効果の推定研究、第94回日本衛生学会学術総会、2024年3月9日、国内
 - ・ 植田陽, 岡田雄太, 西浦博、Type-reproduction number of COVID-19 in risk-stratified population: analysis on the high-risk group intervention、第94回 日本衛生学会 学術総会 (鹿児島)、2024年3月9日、国内
 - ・ 藤本万理恵, 林克磨, 西浦博、熱中症へのCOVID-19流行の影響推定. 第33回日本数理生物学会大会 (奈良)、2023年9月5日、国内
 - ・ 藤本万理恵, 林克磨, 西浦博、中高生への熱中症予防介入がもたらすリスク減少を通じた適応策評価、第82回日本公衆衛生学会総会 (茨城)、2023年11月2日、国内
 - ・ 藤本万理恵, 林克磨, 西浦博、地域の異質性を加味した気候変動下における都道府県別熱中症搬送者数の予測と疾病負荷の検討、第34回日本疫学会学術総会 (滋賀)、2024年2月2日、国内
 - ・ 藤本万理恵, 林克磨, 西浦博、新型コロナウイルス感染症流行時の熱中症リスク軽減に関する因果推論研究、第94回日本衛生学会学術総会(鹿児島)、2024年3月8日、国内
 - ・ 安齋麻美, 西浦博、新型コロナウイルス感染症に係る入国制限の定量的効果推定、第82回日本公衆衛生学会総会 (つくば市)、2023年10月、国内
 - ・ 安齋麻美, 西浦博、日本で実施されたCOVID-19に対する水際対策の効果推定、第34回日本疫学会総会 (大津市)、2024年2月、国内
 - ・ 安齋麻美, 西浦博、日本におけるSARS-CoV-2アルファ株に対する水際対策の効果分析、第94回日本衛生学会学術総会 (鹿児島市) 2024年3月、国内

- ・岡田雄大, 西浦博、夜間繁華街滞留人口とCOVID-19流行動態の関連の解析、公衆衛生学会学術総会、茨城県つくば市、2023年10月、国内
 - ・岡田雄大, 西浦博、滞留人口データの活用に基づくCOVID-19流行動態の評価、日本数理生物学会大会(奈良)、2023年3月、国内
 - ・林克磨, 植田陽, 茅野大志, 西浦博、クラスターサーベイランスデータを利用したCOVID-19クラスターの時系列因果解析、第94回日本衛生学会学術総会、2024年3月9日、国内
 - ・林克磨, 藤本万理恵, 西浦博、土地利用情報を活用したデング熱感染リスクの分析；台南市流行のケーススタディ、日本衛生学会学術総会(鹿児島)、2024年3月7日、国内
 - ・林克磨, 植田陽, 茅野大志, 西浦博、クラスターサーベイランスデータを利用したクラスター別流行動態の再構築、第33回日本数理生物学会大会(奈良)、2023年9月5日、国内
 - ・小林鉄郎, 西浦博、クルーズ船で発生した新型コロナウイルス感染症の流行動態の再構築、第93回日本衛生学会(東京)、2023年3月4日、口頭
 - ・小林鉄郎, 西浦博、クルーズ船内で発生した新型コロナウイルス集団感染の感染者数と動態の推定、日本公衆衛生学会総会(つくば)、2023年11月1日、口頭
 - ・小林鉄郎, 西浦博、ダイヤモンドプリンセスの船上流行、日本数理生物学会(奈良)、2023年9月4日、口頭
 - ・小林鉄郎, 西浦博、クルーズ船内の新型コロナウイルス集団感染における感染者数の推定、日本衛生学会総会(鹿児島)、2024年03月08日、口頭
 - ・Hayashi.K,Ueda.M,Kayano.T,Nishiura.H、Reconstructing the temporal dynamics of clustering from cluster surveillance of COVID-19、Computational and Mathematical Population Dynamics 6 (CMPD6)、Canada、May 2023、海外
 - ・Anzai, A., Nishiura, H.、Estimating importation cases using mobility data、Computational and Mathematical Population Dynamics 6 (CMPD6)、Canada、May 2023、海外
- (3) ポスター発表 (国内会議 13 件、国際会議 7 件)
- ・西浦博、Cause of death with COVID-19: Survey of households with a deceased member (10363)、日本疫学会、2024年2月2日、国内
 - ・西浦博、わが国における地域別のHIV感染者の新規感染者数と診断割合の推定 (10032)、日本衛生学会学術総会、2024年3月8日、国内
 - ・ZHANG TONG, QIAO JIAYING, 林克磨, 西浦博、COVID-19による超過死亡のメカニズムの分解モデル、第34回日本疫学会学術総会. 大津市. 2024年2月、国内
 - ・雨宮優理、井上智、前田健、西浦博、日本における犬個体群の狂犬病に対する免疫保有割合の推定と接種間隔の影響評価、日本公衆衛生学会総会(茨城)、2023年11月1日、国内
 - ・雨宮優理、西浦博、東南アジア地域における狂犬病の空間リスク評価、日本疫学会学術総会(滋賀)、2024年2月2日、国内
 - ・Jiaying Qiao, Hiroshi Nishiura, Public holidays increased the transmission of COVID-19 in Japan, 2020–2021: a mathematical modelling study, The 34th

Annual Meeting of the Japanese Epidemiological Association, Shiga, Japan,
2024.2.1 ,Domestic

- ・藤原聖子、西浦博、オミクロン株流行下の新型コロナウイルス感染症の家庭内伝播リスクに関する横断的研究、第34回日本疫学会学術総会、2024年2月2日、国内
- ・Minami Ueda, Yuta Okada, Hiroshi Nishiura、Prediction of COVID-19 infection based on individual demographics and behaviors、第34回 日本疫学会 学術総会（滋賀）、2024年2月1日、国内
- ・岡田雄大、西浦博、日本における小児の結核年間感染リスクと発症率・診断率の推定、日本衛生学会学術総会. 鹿児島県鹿児島市、日本、2024年3月、国内
- ・岡田雄大、西浦博、2007-2021年の日本における結核罹患リスク動態と発症・診断率の推定、日本疫学会学術総会. 滋賀県大津市、日本、2024年2月、国内
- ・植田 陽、岡田雄大、西浦博、Prediction of COVID-19 infection based on individual demographics and behaviors、日本疫学会学術総会. 滋賀県大津市、日本、2024年2月、国内
- ・林克磨、植田陽、茅野大志、西浦博、クラスターサーベイランスデータを利用したクラスター連鎖の再構築、第34回日本疫学会学術総会(びわ湖大津プリンスホテル)、2024年2月1日、国内
- ・Tetsuro Kobayashi, Hiroshi Nishiura, Estimating the time-dependent hazard and actual size of infection during a COVID-19 outbreak on a cruise ship, 2020, 日本疫学会(大津), 2024/02/01, 国内
- ・西浦博、Opt-out vaccination of COVID-19 in selected municipalities in Japan (P2.101)、International Vaccine Congress、2023年9月26日、国際
- ・茅野大志、高勇羅、大谷可菜子、小林鉄郎、鈴木基、西浦博、Evaluating the COVID-19 vaccination program in Japan, 2021、Epidemics: 9th International Conference on Infectious Disease Dynamics (イタリア)、2023年11月29日、国際
- ・Fujimoto M, Hayashi K and Nishiura H、PHSM-induced risk reduction of heatstroke during the COVID-19 pandemic、Epidemics - 9th International Conference on Infectious Disease Dynamics. (イタリア)、2023年11月29日、国外
- ・Anzai, A., Nishiura, H., Number of COVID-19 importations averted by travel restrictions in Japan, 9th International Conference on Infectious Disease Dynamics (EPIDEMICS9), Italy, November 28- December 1, 2023、国外
- ・Yuta Okada, Hiroshi Nishiura. Estimating COVID-19 dynamics using the wastewater viral surveillance. Epidemics9 9th International Conference on Infectious Disease Dynamics, Bologna, Italy, November 2023、国外
- ・Hayashi,K,Fujimoto.M,Nishiura.H, Assessment of Dengue Infections in Japan over the Next Century under Climate, Population, and Geographic Changes, 9th International Conference on Infectious Disease Dynamics (EPIDEMICS9), Italy, November 28- December 1, 2023、国外
- ・Tetsuro Kobayashi, Hiroshi Nishiura, Assessing the time-dependent hazard and actual size of infection during a COVID-19 outbreak on a cruise ship, 2020, EPIDEMICS (Bologna), 2023/11/28, 国外

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿 (37 件)

- ・新型コロナ第9波に突入 欧米の流行状況から見える日本の予測 (バズフィードニュース、2023年4月3日)
- ・コロナ5類移行後「定点把握」で流行監視どうなる?【詳しく】 (NHK、2023年4月12日)
- ・新型コロナ、5類移行へ 「インフル並み」なら安心か (日本経済新聞、2023年4月14日)
- ・ワクチン接種なければ36万人死亡も、京大・西浦氏 (m3.com医療維新、2023年4月15日)
- ・第9波は「第8波より大きな流行になる可能性も」、押谷氏ら (m3.com医療維新、2023年4月19日)
- ・じわり感染拡大中…もし「第9波」が来たら大丈夫? 新型コロナ、5月に感染法上「5類」に引き下げ (東京新聞TOKYO Web、2023年4月14日)
- ・パンデミックの先に コロナは流行繰り返す「エンデミック」へ 西浦博氏が鳴らす警鐘 (毎日新聞、2023年5月5日)
- ・パンデミックの先に 「命奪うのに最適に進化」 西浦教授がまだまだ恐れる新型コロナ (毎日新聞、2023年5月5日)
- ・パンデミックの先に 「第9波」被害拡大も 京都大教授・西浦博さん (毎日新聞、2023年5月6日)
- ・政治に翻弄されたコロナ5類移行 専門家が議論し尽くせなかったこと (朝日新聞デジタル、2023年5月6日)
- ・コロナ5類移行 「第9波」なお警戒医療体制に懸念も 岸田政権、問われる結果責任<フォーカス> (北海道新聞、2023年5月7日)
- ・新型コロナ5類移行 普通の風邪にはなお時間 変異株発生に警戒を【表層深層】 (あなたの静岡新聞、2023年5月8日)
- ・コロナ5類「科学ではなく空気で決まった」西浦教授が指摘する課題 (朝日新聞デジタル、2023年5月9日)
- ・新型コロナ、インフル並みの感染症法上の5類に 対策の大転換に流行再拡大の懸念も (Science Portal、2023年5月9日)
- ・世界に広がるコロナ「XBB系統」 専門家が「第8波よりも大きな流行」を懸念する理由<AERA> (AERA dot.、2023年5月11日)
- ・(コロナ5類、専門家たちの葛藤: 2) 西浦博さん、押谷仁さん (朝日新聞デジタル、2023年5月24日)
- ・コロナ5類、専門家たちの葛藤2 西浦博さん、押谷仁さん (朝日新聞、2023年5月24日)
- ・コロナ感染者「5類」移行後増え続ける 東京は前週の1.5倍、専門家は警鐘 (エキサイトニュース、2023年5月26日)
- ・「次のパンデミックは『もう始まっている』と考えるべきだ」 理論疫学者、西浦氏が語るポストコロナの世界 (毎日新聞医療プレミアム、2023年6月3日)
- ・感染者数じわり増で「第9波」? 新型コロナ5類化1カ月 まだ警戒必要か、それとも「普通の感染症」扱いか… (東京新聞TOKYO Web、2023年6月10日)

- ・ 新型コロナ「超過死亡」先月は顕著な増加見られず【Q&A】（NHK、2023年6月23日）
- ・ 5類移行でデータ減、「第9波」収束読めず（毎日新聞西部、2023年7月8日）
- ・ 5類移行 読めぬ第9波（毎日新聞大阪、2023年7月8日）
- ・ コロナ拡大「第9波」懸念（毎日新聞東京、2023年7月8日）
- ・ 初投稿日「偽アカ疑惑」にどう対処？ 新型コロナクラスター対策専門家「なかのひと」公衆衛生学者の使命と挑戦（Yahoo!ニュース、2023年7月18日）
- ・ 東京都 定点把握による患者報告数11.12人 定点把握に変更後初の10人越え（TBS NEWS DIG – Yahoo!ニュース、2023年8月3日）
- ・ 感染症専門家の不足 息長く育成する環境を＝論説委員・永山悦子（毎日新聞、2023年9月21日）
- ・ 「ここは学会じゃない」声荒げた尾身氏 宣言下、専門家同士の激論（朝日新聞デジタル、2023年9月28日）
- ・ 気候改革：温暖化で広がる「デング熱」リスク 新たな媒介生物侵入の恐れも（毎日新聞、2023年9月29日）
- ・ 「国内感染」リスク増（毎日新聞、2023年10月9日）
- ・ 尾身茂氏 コロナ禍を振り返る オリンピック・パラリンピックの「無観客」提言…政府と距離できた（読売新聞ヨミドクター – Yahoo!ニュース、2023年10月15日）
- ・ コロナワクチン、オミクロン初期の東京で850万人の感染を回避／京大（ケアネット、2023年11月14日）
- ・ ワクチン効果「死者1/36」 コロナ 京大推計、感染90%超減（日本経済新聞、2023年11月17日）
- ・ 新型コロナワクチンで感染者数や死者数大幅減か 京都大が試算（NHK、2023年12月3日）
- ・ 「政府のコロナ対応、不十分な検証に危機感」西浦博・京都大教授に聞く（西日本新聞me、2024年1月15日）
- ・ 香港の仕事人 第91回 感染症専門家その2（日本編）（香港ポスト、2024年2月10日）
- ・ “危機感が伝わらない”新型コロナ 専門家たちの闘い（2024年3月29日）

(2) 受賞 (0 件)

・

(3) その他 (0 件)

・

6-6. 知財出願

(1) 国内出願 (0 件)

(2) 海外出願 (0 件)